さいわい Profile

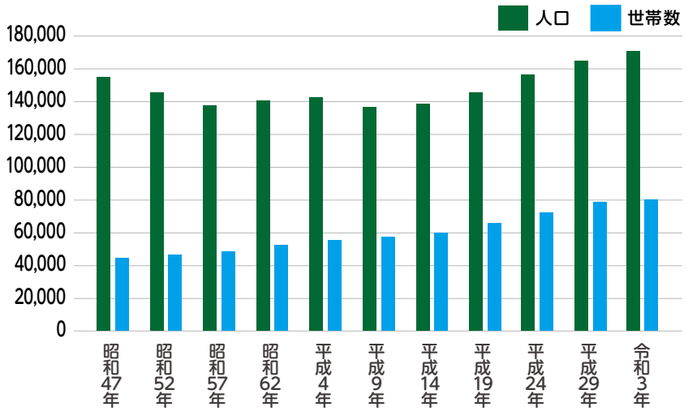
面積 10.09km²

7区の中で一番小さい

人口 17万1,200人（令和4年4月1日時点）

人口と世帯数

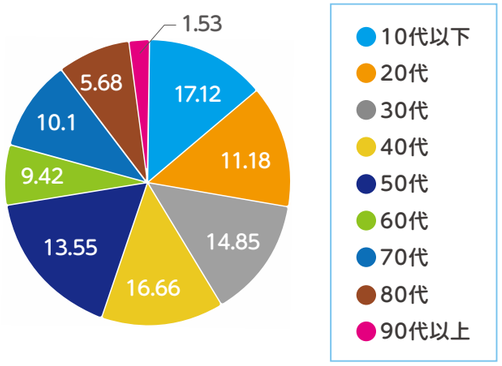
面積が川崎市内の7区の中で一番小さく、人口も一番少ない区ですが、ここ数年、人口は少しずつ増加しており、新しいマンションなどの大規模な開発もあることから今後も人口は増える見込みで、**住みやすく活気のあるまちです。**



年代別人口

40代までで区内人口の半分以上を占めており、比較的若い人が多いと言えます。一方で、65歳以上の高齢化率は21.9%であり、今後も増加が見込まれます。

子どもから大人、高齢者まで誰もが生き生きと過ごせるまちづくりを目指しています。

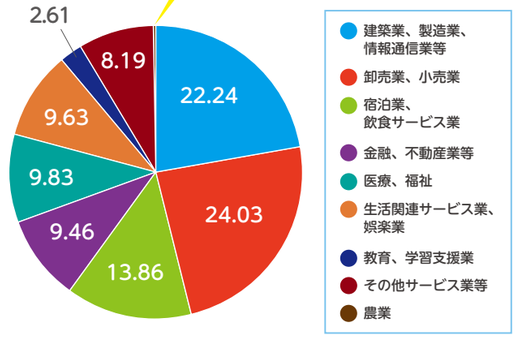


産業

区内の製造業は年々減少し、現在はほとんどがサービス業で占められています。サービス業の内訳をみると、卸・小売業、宿泊・飲食サービス業、金融・不動産業、生活関連サービス（クリーニングや美容業など）・娯楽業が多いことが分かります。

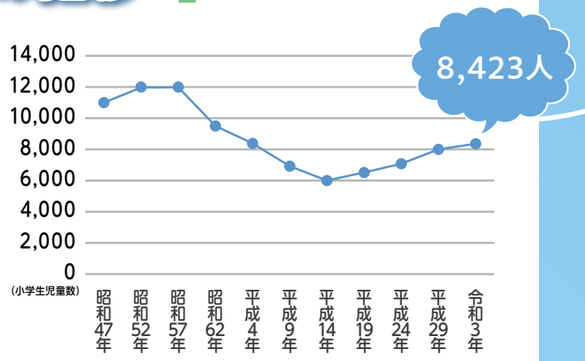
グラフでは割合が小さく見えにくいですが、**実は幸区にも農業を行っている事業者がいます。**幸区産の農産物、食べたことありますか？

実は農業も0.15%ある！



子どもの推移

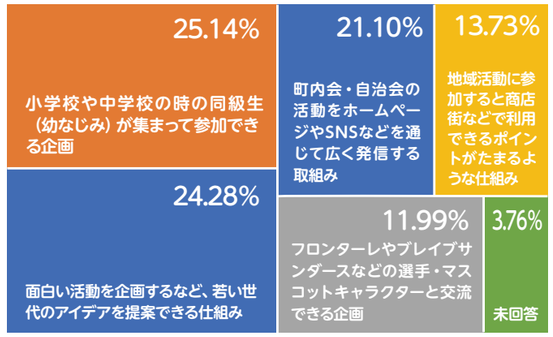
幸区が誕生した昭和47年から50年間の子ども（小学生児童数）の推移です。昭和54年をピークに徐々にその数は減少していきましたが、平成14年ごろから増加へ転じ、**令和3年で8,423人**となっています。新しいマンションの開発に伴い、今後も子どもの数の増加が見込まれており、現在、新しい小学校が建設中です。



若者に聞く

地域の活動に高校生が参加するためにはどうしたらいいか？

幸区では幸区内の高校生を対象にアンケートを実施し、公開しています。**地域活動に若者が参加するためにはどうしたらいいか。**選択式で高校生からの意見を集めました。



さいわい Profile

幸区の3つの地区

御幸地区

かつて明治天皇が梅の名所であった小向梅林に行幸（御幸）されたことにちなみ名付けられた地域です。「幸区」という名前も、当時の御幸村という村名と「幸多い」地域にという願いに由来しています。御幸公園では当時のような梅の名所への復活を目指し、梅の木植樹のプロジェクトが進められています。さまざまな種類の梅が植えられており、令和５年１月現在、約２５品種２３２本の梅を楽しむことができます。

また、多摩川沿いには川崎競馬の厩舎と練習場があります。早朝の時間でタイミングが合えば土手から練習の風景を見ることができます。

古くから工場が進出し、産業による川崎の発展を支えた地域で、現在も東芝小向事業所などがあります。

日吉地区

市内唯一の動物園である夢見ヶ崎動物公園がある地域です。この夢見ヶ崎動物公園は加瀬山古墳群が発見されており、歴史的にも重要な地域と言えます。また、多摩川周辺の工場用地のかさ上げや新鶴見機関区の埋め立てに加瀬山の土砂が使われました。加瀬山は、本来の形を変えながら、幸区の地盤としてまちの発展に貢献してきました。

一方で新川崎エリアでは、かつて東洋一の規模を誇る新鶴見操車場があり、京浜工業地帯の物流の拠点として、川崎の工業化を支え続けてきました。現在は規模が縮小され、信号場が残されています。操車場の一部の跡地には最先端の研究開発拠点である新川崎・創造のもりがあり、今でも川崎の産業を支えています。

南河原地区

川崎の工業化が始まった地域です。現在は川崎駅西口を中心として、「音楽のまち　かわさき」を象徴するミューザ川崎シンフォニーホールが立地するほか、大型の商業施設やホテルが並び、新しいまちづくりが進められています。

川崎駅西口を中心とした都市のイメージが強い一方で商店街もあり、地域の活動も盛んな特徴があります。また、南河原公園に隣接するさいわい緑道は地域の方が花壇の手入れを行っており、訪れる人の憩いの場となっています。このさいわい緑道は、昔の南武鉄道の貨物支線の跡地に整備されたもので、多摩川の良質な砂利を運ぶために利用されていました。今でも上空写真を見ると、多摩川から矢向駅まで結ぶ支線の名残を感じることができます。